

●進水船二十隻

現時海運界活躍の狀勢に鑑み、造船事業は未曾有の活況を呈し居れるか、今一千噸以上の船舶建造に關し最近遞信省の調査する處に依れば本年一月五隻一萬六千九百六十三噸二月二隻一萬四百八十五噸三月六隻二萬六千八百七十六噸四月三隻八千五百三十八噸五月四隻九千八百二十二噸にして合計二十隻七萬二千六百八十四噸となれり、斯の如きは實に我國空前の盛況にして僅に五ヶ月間の進水船を見るも尙昨年一ヶ年の總計よりも多きに達せり、去れば假令材料缺乏の聲高しと雖も尙今後造船界の活躍注目すべきものあり。

船名	噸數	船主	造船所
新利丸	一、三〇二	張本政	大阪鐵工
悠紀丸	三、一六二	馬	同
明海丸	三、一八五	明治海運	同
廣速丸	三、一八九	廣海	同
主基丸	三、二〇〇	辰馬	同
廣通丸	三、二〇〇	廣海	同
但馬丸	七、三〇〇	郵	川崎
龍野丸	七、三〇〇	郵	同
常盤丸	七、三〇〇	同	同
敦賀丸	七、三〇〇	同	同
秋田丸	三、八〇〇	同	同
浦賀丸	二、一〇〇	日露漁業	浦賀船渠
山形丸	三、七七七	郵	三賀船渠
東泰丸	三、二〇〇	同	大阪鐵工
勝浦丸	一、六九五	菱	神戶三菱
吉備丸	一、一五〇	豐	播摩船渠
貴船丸	三、二〇〇	橋	大阪鐵工

雜錄

萬字丸	二、一三八	北海炭礦	浦賀船渠
江崎丸	三、二〇〇	日露漁業	大阪鐵工
天王丸	二、二四八	石川汽船	浦賀

●造船臺の増設

海運界の盛況に伴ひ我造船事業は

非常なる繁忙を極め、各造船所何れも設備を擴張し從來一千噸以上の造船臺十九臺なりしもの今は三十七臺と爲りたり其數左の如し。

- △大阪鐵工所十二臺△神戸三菱造船所三臺△長崎三菱造船所六臺△川崎造船所六臺△松尾鐵工所二臺△小野鐵工所二臺△浦賀船渠會社二臺△石川島造船所二臺△播摩造船所二臺。

●役に立たぬ鐵鑛

役に立つ鐵鑛は磁鐵鑛と赤鐵鑛

と褐鐵鑛なり、鏡鐵鑛、輝鐵鑛、雲母鐵鑛は、赤鐵鑛の別名にして、沼鐵鑛は褐鐵鑛の別名なり、何れも有用鑛物なれば本論より省く、クローム鐵鑛も有用鐵物なれば省く、黃鐵鑛又の名は硫化鐵鑛、此れも御承知の通り有用鑛物なれば省く、磁硫鐵鑛は綠礬の原料となる有用鐵鑛なれば省く。茲に本邦にては役に立たぬか偶々何々鐵鑛なる名を冠せられたる胡亂のものを御紹介申すへし。

(一)自然鐵。此れは嘗つて肥前西ヶ嶽に産すと傳へられし事ありたり、若し多量にても産するなら有用鑛物なるへさか、其の發見せられしものは米粒の四分分程のもの二箇のみにして、然もよく調へて見ると天然物なるや靴の